

山 域	笈ヶ岳		
期 日	2003年4月26日~28日	形 態	テント泊
メンバー	GL 畑(講)	SL 六ヶ所	食当 松島 記録 頼永
概念図			
日 程	4/26	岩津市民センター(2000) === 豊田東 IC(2008) === 一宮 JCT(2042) === 長良川 SA(2102,2127) === 白鳥 IC(2200) === 勝原駅(2250)TS1	
	4/27	TS1(535) === 一里野スキー場北竜会館西隣 PKG(,702,800) --- 中宮発電所登山口(823) --- 導水管横平坦部(842,852) === 貯水池(906) --- 杉林下急登途中(946,958) --- 杉林(1003) --- 山毛櫨尾山の肩急登手前平坦部(1036,1057) --- 山毛櫨尾山(1145) --- 山毛櫨尾山東(1155,1245) --- C1220m 平坦部(1314,1330) --- P1271m(1348,1405) --- P1312m 手前(1445,1455) --- P1312m(1510)TS2	
	4/28	TS2(535) --- 冬瓜山分岐(617) --- 冬瓜平(625,632) --- P1640m 北小鞍部(750,815) --- 県境尾根分岐(840) --- 笈ヶ岳(913,942) --- P1640m(1031,1043) --- 冬瓜平(1115,1127) --- 冬瓜山分岐(1153) --- P1418分岐(1215) --- P1312mTS2(1228,1400) --- P1271m(1437,1453) --- 山毛櫨尾山東(1545,1557) --- 山毛櫨尾山(1604) --- 杉林(1640,1650) --- 貯水池(1720) --- 尾根下降点(1730,1740) --- 発電所登山口(1747) --- 北竜会館西隣PKG(1816,1835) --- 一里野温泉「天領」(1840,1943) === 福そば(2043,2120) === 白鳥 IC(2200) === 関 SA(2300,2330) --- 豊田東 IC(018) === 岩津市民センター(025)	

感想

4/26

2週間前の敗退のリベンジを誓い岩津市民センターを出発。新しく出来た豊田東ICより高速にのり、前回と同様に勝原駅の駅舎内で宿泊。テントを張らなくてもなかなか快適。六ヶ所さんの持ってきてくれたタコぶつがおいしかった。

4/27

白山一里野スキー場近くの北竜会館西隣に車を止め、登頂開始。天気は晴れ。今度こそ行けそうと期待に胸を弾ませながら山毛櫓尾山の急登にとりつく。2週間前はすぐに雪がでてきたのに山毛櫓尾山山頂直前まで殆ど雪が無い。この時期の雪解けのスピードが速いのに驚かされた(2m近く減っている)。山毛櫓尾山からは瘠尾根をアップダウンを繰り返しながら進む。所々雪が無くなっているが、道がある程度出来かかっておりたいした藪漕ぎも無く進むことができた。この日は、冬瓜平から1時間程手前の1312mピーク付近にテントを張った。ここは、白山等の眺めも良く風さえなければ絶好のテント場だ。

4/28

今日も快晴。ルンルン気分でテントを出発。冬瓜平を過ぎた急斜面で雪崩の痕を横切る。この急斜面ではかなり雪崩の危険が高いがここを避けるには、冬瓜山の岩場の稜線を通るしか無くこちらはかなり厳しい。シリタカ山、県境尾根への急登を経てついに憧れの笈ヶ岳の頂上に立て皆感慨に浸った。頂上からは、白山、大笠山等の360度の大展望が広がる。三角点の横に缶がありその中にノートが入っていた。中を見てみると、9月にかなりの藪漕ぎをしながら登った人もいる。残雪期しか登れない山だと思っていたが、そのうち何時でも登れる山になってしまうかもしれない。帰りも行きと同じコースをたどる。行きにはあまり目に付かなかったが、山毛櫓尾山の下りでかたくりの大群落に出会う。聞けば、日本で3本の指に入るとのこと。5月初旬にここにかたくりを見に来るのも良いかもしれない。かたくりを楽しみながら、下山したのが18時過ぎであった。12時間を越える長い行程でかなり疲れたが、憧れの頂上に立て大満足であった。ちなみに、今回が六ヶ所さん4回目、畑さん3回目、松島さんと私が2回目の挑戦でした。

尚、今回は一里野から1泊2日で登りましたが、ジライ谷コースを日帰りで登る人のほうが多いようです。但し、かなり高度感のあるスリリングなロングコースのようです。